

能登半島地震発生後、金沢港にセメント船が初入港 海上輸送の再開により安定供給へ

能登半島地震により被災した金沢港御供田^{こくでん}ふ頭の応急復旧工事（国・石川県）とセメント配管の復旧工事（民間）が完了したことから、セメント運搬船の入港が6月5日（水）から一部再開します。

1. 概要

能登半島地震により、御供田^{こくでん}1号岸壁や背後用地に被害に加え、セメントサイロへの配管が被害を受け、セメント運搬船の利用が出来なくなり、地震発災以降、海上輸送によるセメント等の受入ができず、近隣県から多数の車両にて陸上輸送を行っていました。

この度、国、県による応急復旧工事とUBE三菱セメント株による配管の復旧工事が完了したことから、地震発災後初となるセメント運搬船の入港が再開されます。

入港再開により、これまで同様に海上輸送により大量のセメント運搬が可能となることから、今後、本格化する能登半島地震の復旧・復興に向けた重要な資材の安定供給が期待されます。

引き続き、一日も早い岸壁等の本格復旧に向け、取り組んでまいります。

2. 施設、入港船舶概要 ※詳細は別紙-1、2参照

- ・係留施設：金沢港御供田1号岸壁（水深10m、延長185m）
- ・入港船舶：船名「平尾山丸^{ひらおざんまる}」（セメント運搬船）
- ・入港時間：6月5日（水）8時30分頃接岸予定（当日18時30分頃出港予定）
- ・積荷：セメント・固化材 約4,200トン（福岡県苅田港から輸送）

3. 取材申込

- ・セメント運搬船入港時の取材を希望される方は、別紙-3により申し込み願います。

問い合わせ先

北陸地方整備局金沢港湾・空港整備事務所
TEL：076-267-2241 副所長 田中、工務課長 石野
石川県土木部港湾課
TEL：076-225-1749 次長兼課長 納橋、課参事 前田

位置図



被災状況



エプロンの沈下

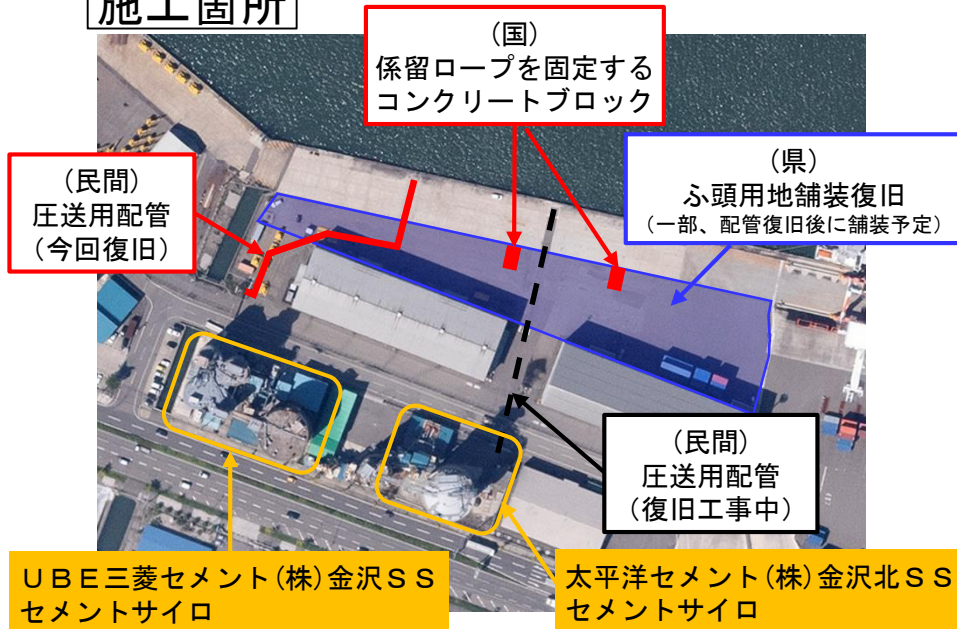


ふ頭用地陥没

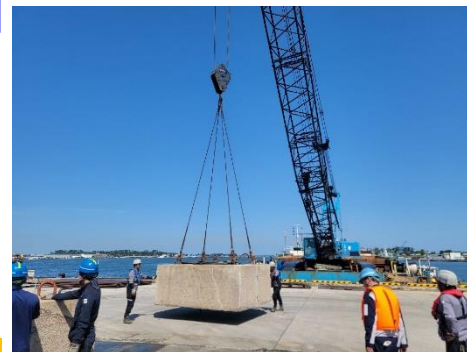


11基の係船柱のうち5基が使用不可

施工箇所



復旧状況



コンクリートブロック設置



圧送用配管復旧工事

セメント運搬船『平尾山丸』^{ひらおざんまる}



船主・運航 : 鶴丸海運株式会社
総トン数 : 2,983 トン^{※1}
重量トン数 : 4,576 トン^{※2}
積高トン数 : 4,200 トン
船型 : 全長 94.69m × 船幅 16m × 喫水 7.3m
輸送可能貨物 : セメント、固化材 他
荷主 : UBE三菱セメント株式会社
荷役方式 : 積込み（機械式・圧送式）、荷揚げ（機械式・圧送式）

※1 総トン数 : 船舶大きさを容積で表したトン数

※2 重量トン数 : 船舶が積載できる貨物の重量を示すトン数

資料提供 : UBE三菱セメント株式会社

取材申込書

取材を希望される報道機関は、下記1～4の必要事項を記入の上、メールにより申込をお願いします。

申込メールアドレス e251300@pref.ishikawa.lg.jp

期限：6月4日（火）16時まで

1. 報道機関名

2. 取材者氏名

※入場される方全員の氏名を記載願います。

3. 電話番号

4. メールアドレス

5. その他

制限区域内への入場となるため、取材を希望される方全員の申込が必要となります。

現地の取材対応は、6月5日(水)8:00～10:00までとします。

当日は、戸水Aゲートで受付を行ってから入場してください。

安全上の観点から場内への車両の乗り入れは出来ません。指定された場所に駐車をお願いします。

セメント運搬船の入港日又は入港時間は、天候等により変更となる場合があります。

